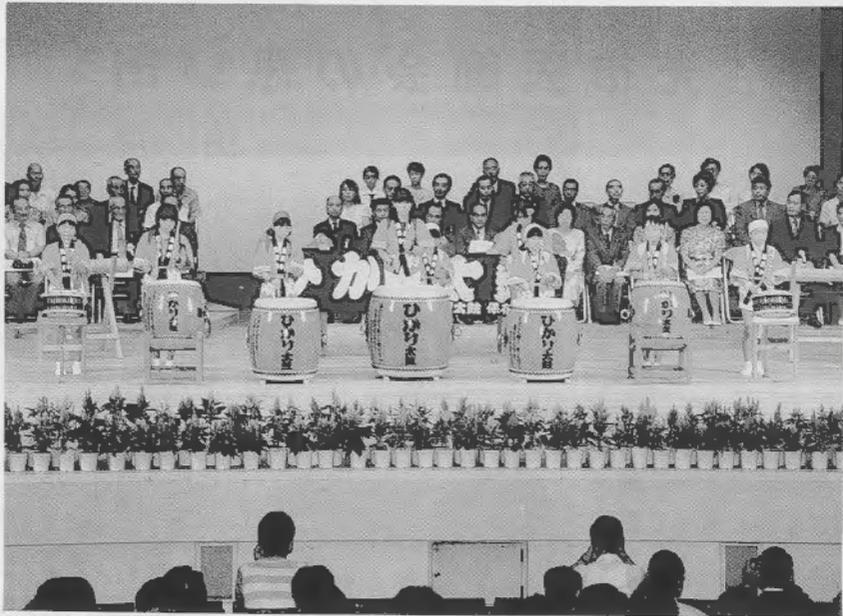


光市医師会報

平成2年9月号

No. 215



式典に響く太鼓

光市医師会

田尻先生のご苦労さま

永年に亘り光市医師会の要職を歴任され、光市医師会の発展に貢献されました田尻先生が、この度第一線を引退され、神奈川県のお子息のもとへ転居される事になりました。8月10日に有志による盛大な送別会がおこなわれ、別れを惜しまました。永年の光市医師会への御尽力に心よりお礼を申し上げ、何時迄も御健勝で余生をお送りされますようお祈り申し上げます。

光市医師会の思い出

田尻 常太郎

終戦の翌年5月初めの普賢市のお祭りの3日前から室積に住みついた。その時の光市医師会長は上島田の秋本先生。副は室積の友広先生その他会員は復員引揚者を含めて10名足らずではなかったか。梅田先生が光駅前が開業して初日に8名新患があって数字的に縁起がよいと言って喜んでいた。

医薬品は県医師会→都市医師会長を経由して末端会員へ、我々の処に届くのは苦味チンキとか吉草チンキの類、アスピリンや下痢止等は何処に消えるのが皆目手に入らない。いける口は水で薄めて呑めるからまあまあ我慢が出来るが、呑めない口は憤慨一入だった。その後前田先生が会長になられてからは多少医師会らしくなり役員会は会長宅で例会は島田市のお寺で、話題は終戦後の話や税金の話で確定申告なども大体医師会で決めて税務署に申告の形を取っていた。大谷先生が会長の時確定申告の事で税務署



内で課長をどなりつけて交渉したり又私の自宅に税務課長が一人でやって来て私の預金通帳を見せる様に言って預金が15万円も有るのは多すぎる5万円を税金として払え

とその場で即決。和田住宅に居た岡本先生がやって来て梅田君は一日の水揚げが1万円位あるらしいぞと言っていたり、室積の竹重先生の二人が所得額80万円の双壁だったりした事もあった。その後定時総会の席上高島先生が会長に

指名されて会の途中僕はやらぬと言って逃げ出し岡本君と2人で追って行って漸く承諾させたりした事もあった。それがなんと長年の間色々な事があつたりはしたが光市医師会長としての長期記録を作った。それというのも県医師会からの通達事項も少なく例会では、通達事項を棒読みにして報告すればそれで終り。林会長の頃には厚生省に対する武見日本医師会長の神通力も弱まり保険医総辞退等の事もあった。今の

事務的事項万能の医師会とは違ってやり甲斐があった様に思われる。牛島への出張診療も私が7年間通ったり医師会員全員に協力願ったりした事も忘れられない事の一つだろう。あの頃の事を思うと医師会長初め役員の事務量の多いのには驚くばかり誠に同情に耐えない様な気がする。最後に終戦後今日まで老いも若きも合せてザット20名近くの先生方を失った。前田俊男先生と私が頑張ってきたが80才の坂を越えて最

近頃に衰えを見せて来た状態になって来た。現役の先生方の御健斗と御多幸をお祈りして欄筆させていただきます。

二伸

私事突然の廃業転出で先生方に大変御迷惑をおかけ致しました。その上送別会や記念品やお見送りまで頂きまして有難うございました。老後を大切に余生を送りたいと思っております。本当に永年御世話になりました。

平成2年8月22日



田尻常太郎先生の御勇退に際して

光市医師会 福本寿雄

田尻常太郎先生におかれては、今度開業をやめられ、埼玉の方へ転居されると聞き、おどろきと共に親父と別れるような何とも言えない淋しい気持で一杯です。

先生は、昭和21年に室積に開業されてから満44年間、地域医療の為に貢献されました。その間、光市医師会長4年、副会長10年、議長10年その他副議長、顧問、裁定委員等数え切れない程、いつも医師会の重鎮

として君臨されておられました。

又牛島が無医地区になるや、昭和32年より9年半の長きに亘り、週2回老朽船で牛島に渡り診療され、島民から慈父の様に慕われておられました。

そして学校医としては、昭和23年1月から現在迄室積小学校の、昭和28年4月より昭和45年3月迄室積中学校の校医をなされ、又昭和38年4月から約11年間牛島の小、中

学校の校医として子供達の健康に熱心に取り組んでこられました。

ことに室積小学校に於ては、先生のお蔭で山口県健康優良校、山口県環境衛生優良校等を度々受賞され、誠に立派な業績をあげられました。その業績に加えて、長年の校医及び離島の校医等により先生には昭和62年10月には文部大臣賞及び山口県教育委員会賞を受賞されました。まさに先生の医は仁術であり、学校医としての模範とすべき先生であります。

又医師会の方でも、いつも例会だけでなく医師会の行事、即ち医学会、親睦旅行、野球、ポーリングや麻雀等にはいつも顔を出され、ニコニコと我々を見守って下さっていました。先生は殊にお酒が好きで、宴会では、いつもおいしそうに杯を傾けておられたのが印象的であった。宴会の後もいつでも二次会、三次会に付合っただけで、御自分から積極的に喋りするのではなく、よく人の話をじっくり聞いて下さり、いろいろアドバイスしてくれました。話をする時も、私の様に大声を出すことなく、口の中でモグモグと話される方で、我々には少々聞きづらいこともよくありました。しかし一杯入ると、昔の話に花が咲き、飲んで失敗したことや、森昇先生、佐藤佐伊太郎先生、梅田茂先生達とアチコチ遊び廻った話を楽しそうにしておられました。しかしこれ等の先生も殆んど亡くなられてしまった。それだけでなく、昭和30年代の会長高島潔先生、昭和46年から8年間会長だった林孝之先生、昭和54年から5年間会長だった大野宗二先生、それに副会長、理事を永年やられた松村晴正先生が次

々に亡くなられ、ほんとに淋しい思いをされたことでしょう。それに83才という御高齢ということも加わって、最近はお酒もあまり多く飲まれなくなり、ネオンの巷に出ることもなくなった。従って昔の「午前様」という悪いアダナも返上されたようである。

又先生は随筆をよく書かれていて、医師会報等に人から頼まれれば、いつでも心よく引受けて下さり、ユーモアのある文章で、失敗したこと、悪いことをした事、なつかしい思い出等をよく投稿されて、いつも我々を感服させられていた。

私が先生といつも話をする話題は、朝鮮（韓国）のことだった。先生は京城（ソウル）に長く住んでおられ、私は釜山（プサン）で生れ、平壤医専（ピョンヤン）に行っていた関係で京城には年に何回も遊びに行っていたからである。従って京城の総督府、鐘路町、昌慶苑、キーサン学校等の話ばかりで、話が止まることがなかった。

私が光に来たのが昭和36年、34才の時であるので、現在迄約30年間も先生にお世話になったことになり又御迷惑をおかけしたことを今更ながら深く反省している。

そのようなわけで、先生とお別れするのは、本当に親父と別れる様な淋しい気持ち一杯です。本日先生の送別会の日、先生の思い出を辿りながら書いていたら、とうとう胸が一杯になって筆が止ってしまった。先生どうぞお元気で、いつまでも長生きして下さい。

先生サヨウナラ。

（平成2年8月10日記）

新入会員紹介

河村 康明

(河村医院)



(自己紹介)

中学を卒業後、光市を離れてこのたび、25年ぶりに再び光市へ戻ってまいりました。最初の2週間は再開業にむけて事務処理を行い、平成2年8月2日に開院の運びとなり、気持ちを新たにしているところです。開院6ヶ月前より、病院内改装を考えて設計・改築を行いながら準備を進めてまいりましたが、その間、周囲の先生方には様々な御迷惑をおかけし、この紙面をお借りして御礼を申し上げます。

先日、中学の同窓会が開かれましたので、軽い気持で参加しましたが、教官も含めて40人程度集まり、それぞれの苦労話を聞いて、身が奮い立たされる思いがした次第です。自己のPRを少しさせていただきますと、大学病院では循環器内科学を専攻してまいりました。とりわけ、非侵襲的な検査法としての心臓核医学を専門領域として右

略歴

昭和53年 東邦大学医学部卒

昭和53年6月～55年5月

東邦大学大森病院研修医

昭和55年6月～59年9月

東邦大学大森病院第1内科

昭和59年7月～60年6月

ハーバード大学・マサチューセッツ総合病院留学

昭和60年7月～平成2年6月

東邦大学大森病院第1内科

心機能検査や脂肪酸代謝画像を研究テーマとして、現在の心臓核医学の創始者とも言えるべきハーバード大学(マサチューセッツ総合病院)シュトラウス教授の下で一年間研鑽を積むと共に、心臓カテーテル・救急医学を同時併行で学びましたが、救命救急センター在籍中には東京消防庁救急隊指導医として東京都の救急医療体制を学んだことがこれからのprimary careの実施に役立つものと確信しております。

家族は妻(神経内科専攻)と長女(5才)、長男(3才)に母の5人暮らしで、趣味は着実に増加する体重のために体を動かすことは少なくなりましたがスポーツを見ること・することは大好きで、時間と精神的なゆとりができれば少しずつ始めようと思っています。

河村 裕子

(河村医院)

略 歴



昭和53年3月 東邦大学医学部卒業

昭和53年6月～54年4月

東邦大学大橋病院研修医

昭和54年5月～平成2年6月

東邦大学大橋病院第4内科

8 月 度 月 間 行 事 ・ 会 議

日	曜	行 事 ・ 会 議	場 所	出 席 者
7	火	定例理事会	光市医師会館	7 名
9	木	郡市医産業保健担当理事協議会	県医師会館	前田理事
17	金	心電図研究会	光市立病院	9名(光市医師会)
16~ 20	木~ 月	国保審査会		富恵副会長
21	火	学術講演会・月例会	ホテル松原屋	23名(月例会)
21	火	光市三師会役員会	武田厚生会館	4名(光市医師会)
23	木	郡市医地域医療計画担当理事協議会	県医師会館	丸岩理事

定例理事会

8月7日(火) 午後7時30分～
光市医師会館(光商工会議所)

出席者、福本会長、富恵副会長、赤崎・
近藤・梅田・前田・吉村理事

議 題 (報告・協議事項)

1) 郡市医師会会長会議等報告 (福本会長)
 ・ 社会の趨勢が週休2日制に傾いている現状では、生涯教育セミナーの休日開催を避け、土曜日におこないたい旨県医の要望である。

- ・ 医療情報システムとその活用のアンケート集計結果について
- ・ 音声自動案内サービスのフローの件
- ・ 地域医療計画一患者調査の件
- ・ 医師国保一療養給付が増加している。

2) 保育園医・学校医変更の件
 (福本会長)

松村晴正先生死去にともない空席の

みたらい保育園園医	} 松村寿太郎先生 に変更
室積幼稚園園医	
室積小学校校医	

3) 健保組合との懇談会 (福本会長)
 今年は光市医師会からは特に議題は提出しない。

4) 健康診査の件 (福本会長)
 期間一10月1日～11月15日
 (例年通りの期間)

今年度は一括方式でおこない、来年度は個別方式とする。

5) その他

イ) 救急医療案内サービスのパンフレット配布の件

ロ) 光三師会の行事の件

ハ) 内科医会の弁当代の件

ニ) 8月の学術講演会の入場者案内の件
 消防署・学校養護教諭・歯科医師会・
 薬剤師会・看護婦関係へ連絡

ホ) 10月の学術講演会は10月16日に開催

ヘ) 8月のEKG研究会の症例の件

ト) 周南医学会の座長の件

チ) 学校医研修会の講師の件

心電図研究会(第26回)

光市・下松医師会合同

8月17日(金) 午後7時30分～

光市立病院

演 題 「心電図の読み方」

講 師 徳山中央病院 河野隆任先生
 症例

- 1) 57才・♂、主訴一喘息発作(喘息が重症となり昏睡状態となる)
 血液検査でCPK・GOT・CPKM B等が著明な上昇をみたが、EKGは梗塞の所見が全く見られなかった症例。
 低K・低O₂血症等のための心筋障害であろうとの解説(赤崎先生症例)
- 2) 74才・♀、主訴一可動時に胸部圧迫感。
 前下行枝の動脈瘤のため血流障害による心筋梗塞 (河野先生症例)
- 3) 59才・♂、主訴一胸痛発作、背部痛
 回旋枝の動脈瘤のため血流障害による心筋梗塞 (河野先生症例)
- 4) 板垣先生がEKG読影困難な症例を約30分に亘って解説された。
 75才・♂、下咽頭腫瘍で、エン下困難な症例の心電図変化

月例会

8月21日(火) 講演会終了後

ホテル松原屋

議 題 (報告・協議事項)

1) 新入会員紹介

河村康明先生・河村裕子先生・

金福柱先生

- 2) 郡市産業保健担当理事協議会報告
(前田理事)
- 3) 学校医・保育園医変更の件
みたらい保育園・室積幼稚園・室積小学
校—松村先生
松原保育園—金先生
- 4) 患者調査表の件
- 5) 医療施設静態の件
- 6) 第16回生涯研修セミナーの件
- 7) ファックスの件

病診連携に役立つ、緊急連絡時に役立つ、記録が残るので伝達途中での間違いがない、事務局の仕事の簡素化のため等のメリットが多いため、なるべく全医療機関で設置して欲しい。

(以上福本会長)

学術講演会

8月21日(火) 午後7時～

ホテル松原屋

演題 「重症呼吸不全の治療
症例を中心に」

講師 徳山中央病院 宮内善豊先生



光三市会役員会

8月21日(火) 午後12時30分～

武田厚生会館

(出席者光市医師会)

竹中、福本、渡辺、藤原

(議、題)

1) 秋の行事の件

10月21日にソフトボールをおこなう

2) 定時総会(3月)の件

— 編集後記 —

9月8日頃が白露といって、草木の葉に白い露が宿りはじめ、秋の趣きが感じられる頃だそうです。今年はことのほか残暑がきびしくこういった情景はもう少し先になりそうです。

田尻先生には医師会報に最後迄ご寄稿いただきましたが、原稿のお願いにいつも心良く応じていただき、改めてお礼申し上げます。いつまでもお元気で過ごして下さいますようお祈り申し上げます。

河村康明先生に自己紹介の原稿をいただきました。有難うございました。

今年は我が家の軒下に燕が巣を作り、子燕が巣立って行きましたが、白露の頃に燕は越冬のため南へ飛び立つのだそうです。我が家を巣立った燕が来年無事に帰ってくるのでしょうか。
(吉村)

発行所	光市医師会 TEL 0833 72-2234
発行者	福本寿雄
編集者	会報編集委員会
印刷所	光市光井一丁目15番20号 中村印刷株式会社